

## 日米首脳会談の概要

外務省作成

小泉総理は、平成15年5月22日から23日にかけて、テキサス州クロフォードにあるブッシュ大統領私邸を訪問し、日米首脳会談を行った。両首脳は、日米両国及び世界が直面している様々な課題につき、じっくりと率直な話し合いを行い、信頼関係を一層深めた。

日米首脳会談における北朝鮮関連に関するやり取りの概要は以下のとおり。

- 1．総理より、(a) 拉致問題等の解決なくして国交正常化はない、国交正常化は拉致のみならず、核、ミサイル、過去の問題を包括的に解決してから行うとの日朝平壤宣言の立場は変わらない。(b) 全てのオプションをテーブルにおくという点を理解する。ただし、イラクと北朝鮮では対応振りが違う。(c) 平和的な解決が重要。(d) 日米韓が協調することが重要。(e) (マルチの協議に) 日本が参加することは不可欠。(f) 平和的な解決のためには対話と圧力が必要。(g) 北朝鮮の違法行為の規制・取締まりを一層強化する。(h) 拉致問題被害者が訪米した際の米国の対応に感謝する旨述べた。
- 2．これに対し大統領より、(a) 北朝鮮の脅迫には屈しない。(b) 中国が責任ある行動をとり始めたことには意味がある。(c) (日韓の参加を得た) 5カ国協議を開催して北朝鮮を説得することが重要。(d) 問題を平和的に解決できると確信しており、そのめたにも強い行動が必要。(e) 北朝鮮からの核や麻薬の拡散は絶対に容認できない。(f) 拉致は忌むべき行為、拉致された日本国民の行方が一人残らず分かるまで日本を完全に支持する。北朝鮮の拉致に対して強く抗議をしたい(総理より謝意を表明) 旨述べた。